

平成 26 年度 第 1 回 市長と語ろう！タウンミーティング 議事録

開催日時 平成 26 年 6 月 23 日（月） 午前 10 時～正午
開催場所 筑波海軍航空隊記念館（記念館内見学を合わせて実施）
参加者 市民 52 人

《フリートーク（意見交換）》

- 1 ラジオ体操の実施とランニングコースの整備について
- 2 笠間城跡の調査について
- 3 畜産試験場跡地について
- 4 友部駅周辺のまちづくりについて
- 5 行政区の運営の考え方と定住化の対策について
- 6 50～70 代の人材育成について
- 7 筑波海軍航空隊記念館の今後について
- 8 筑波海軍航空隊記念館の若い世代への公開について
- 9 都市計画について

《内容》

1 ラジオ体操の実施とランニングコースの整備について

【意見等】

4 月にラジオ体操を友部小のグラウンドでスタートしたが、まだ参加人数が少ないので、できれば皆さんにも参加していただけたらと思う。ラジオ体操は、体のいろんな部分を動かすことができるので、全身にとっていい運動になるし、朝早く起きてラジオ体操をやる仕組みができると、精神安定や健康増進につながると思う。夏休みに向けて、子どもたちの参加も増えると良いと思い、友部小学校に確認したが、学校では夏休みのラジオ体操はやっていないとのこと。自分が子どもの頃は、夏休みはラジオ体操をやっていた。健康都市かさま宣言をし、NHK のみんなのラジオ体操を行ったりもしたので、宣言に伴う取組みがあってもいいのではないかと思う。

もう一点は提案で、この「こころの医療センター」の周辺にランニングコースを作ってみてはどうでしょうか。東京で人気のある皇居のコースは一周 5km で、交差点で足止めされることがないから人気がある。ここの敷地は、一周 2～3km ぐらいにはなるかと思う。新たなお金をかけず、走る場所ができて良いのではないかと思うので、検討していただければと思う。

【回答】

夏休みのラジオ体操は、学校ではなく子ども会が中心となりやっています。また、市から企業に投げかけて、朝礼で普及させていただいています。

現在、市として健康都市づくりに取り組んでいますが、ランニングではなく、ウォーキングのためのヘルスロードを作ったので、これから PR していきたいと思っています。市内には 10 のヘルスロードがありますが、ヘルスロードとわかるように、距離や消費カロリーなどを記載した看板を整備していきます。また、夕方から夜に歩く方向けに防犯灯の設置も進めていきます。ランニングコースについては、検討課題とさせていただきます。

2 笠間城跡の調査について

【意見等】

佐白山にかつて笠間城が鎌倉時代に築城され、関東でも珍しい山城のひとつであるということ非常に貴重な文化財だと思う。国の文化財にも匹敵すると思われるのに、県の指定文

化財にもなっていないなかったので、まずは県の指定を目指し調査しているということを知りうれしく思っている。そこで、調査がどの程度まで進んでいるのか、また今後の見通しがどうなのかを聞かせていただきたい。

【回答】

笠間城跡は、歴史的に大変貴重なものであると言われてきましたが、今まで専門家による調査がありませんでした。そこで平成 25 年度に専門家による調査を行い、国の指定を受けるに十分足りうる史跡だということが報告されたので、市としては、指定に向けての調査をスタートした段階です。

この調査は 1、2 年で終わるものではなく、指定を受けるには 5～10 年をかけたきめ細やかな調査が必要となり、時間がかかると言われています。県の指定文化財ではなくても、価値があるものは、市の指定文化財から直接、国の指定へということも可能であるとのことなので、市としては、県を飛び越えて国の指定を受ける取組みをしていこうかと考えています。指定する際には、エリアを佐白山の頂上からどこまでにするのかを決定する必要がありますが、笠間稲荷神社を入れたエリアまで広げると、広範囲となった分だけ調査に時間もお金もかかるので、まずは佐白山の麓の駐車場のあたりまでということを進めています。地震で少し崩れた石垣に対しては、応急処置としての対応ということで、平成 26 年度は予算づけを行いました。

3 畜産試験場跡地について

【意見等】

畜産試験場跡地は、今後どうなっていくのか。多目的広場として残す予定はあるのか。

【回答】

畜産試験場跡地は県の所有なので、何かをするには県との協議が前提となります。何を誘致するのは、まだ決まっていません。誘致するには、排水設備が必要なので、県で平成 25～27 年の 3 年をかけて排水整備をしています。県には、地元の雇用の確保や税収につながるものを誘致するというので要望しています。排水整備の中で調整池もできるので、多目的な利用ができるよう考えています。

4 友部駅周辺のまちづくりについて

【意見等】

駅周辺に地域交流センターを作ることだが、友部駅の南口は右折で駅に入ろうとする車が朝は渋滞している。駅を活用するのはいいが、基本的なルールづくりを考えなくてはいけないのでは。駅近くの商店街は自らの努力で魅力ある店づくりをしていくのが本来の姿だと思う。

【回答】

駅周辺に拠点を作り、拠点に行けば病院も行けるし、地域交流センターへ行けば証明書も取れるなどのいろいろな機能を果たし、駅を使っただくことで商店街の活性化にもつながり、にぎわいを取り戻すということで考えています。

また、市としては、友部駅の南側の道路の拡幅は考えていません。朝の一定の時間の混雑解消ために、拡幅や交差点改良などの労力と費用を費やすことは考えていません。

5 行政区の運営の考え方と定住化の対策について

【意見等】

松山団地は、20 数年前は活気があって子どもも多かったが、最近は高齢化が進み、子どもが少なくなって寂しくなっている。自治会でも区長の希望者がおらず、総会であみだくじで決めている。自治会の活性化は失われ、班長のなり手もない。このような現状を市は

どのようにとらえているのか、行政区の運営の考え方と対策をうかがいたい。

また、松山団地は二世帯で住める設計になっていないので、子どもが自立したときに同居できず、市外へ出てしまう人もおり、笠間市の人口減少につながっているのではないかと思います。松山団地や旭台団地などに若者が住めるような施策を考えてほしい。

【回答】

地元の取りまとめは区長が中心となるので、負担をかけているのは事実です。高齢化や人口減少でなり手がいないと回り番で交代してやることになります。すぐにどうできるかという解決策については、今はありませんが、地域コミュニティをどうやって維持していくかについては、市民活動課で検討しているところです。これは全国的な課題であり、一つの事例としては、区長制度、自主防災、子ども会、場所によっては商店会、青年会などいろいろある組織を一本化して部会を作り、地域コミュニティを保っていくようにして負担を解消しようという取り組みをしているところもあります。それですべてが解決するわけではないという事実もありますが、地域の維持については大きな課題だと思っているので、しっかり勉強して対応を考えていきたいと思えます。

また、人口については、友部地区は増えており、笠間、岩間地区は減っています。友部地区は、新たに住宅を建てて住む人が増えていますが、一方で松山団地などの昭和 40～50 年代に建設された団地は、空き家が増えています。若い人が住むというのは、交通の利便性が高いことや下水道や浄化槽のインフラも重要なので積極的に支援していきます。なかなか簡単にはいきませんが、団地から別のところに移り住みたいという人と新たに団地に住みたい人の仲立ちができたと思います。しかし、その前段として、住みたいかどうかという意向調査が必要です。どこに住みたいかという調査に基づいて対策を行っていききたいと思えます。

6 50～70 代の人材育成について

【意見等】

若い世代の人材育成だけではなく、50～75 歳までの人もうまく共に活かすような方法はないか。区長の仕事も分野別にし、それぞれに合った活かし方をすれば、力を発揮できると思うので、これからの課題として考えていただければと思う。

【回答】

その年代の方々に行政から無理にお願いするのではなく、その方々自らが地域でやりがいのある施策を考えていきたいと思えます。それが地域のコミュニティづくりにもつながっていくのではないかと考えています。

7 筑波海軍航空隊記念館の今後について

【意見等】

今後、筑波海軍航空隊記念館はどのようになっていくのか。ここにはゼロ戦のエンジンの一部などの貴重な資料がある。全国に 20 か所ぐらいあったこのような建物が今はここにしかないので、壊さずに資料館としてうまく利用することはできないのか。今の若い人は戦争がわからなくなってしまう。NPO を立ち上げてうまく運営をし、子どもから大人まで年代に合わせた話を伝えることで、平和の大切さ、命の大切さを身につけさせる場所にしていけないか。いろいろな思いを持つ人が集まって、どのようにしていったらいいのか考える会を作ってもらいたい。

【回答】

筑波海軍航空隊記念館は県の所有なので、活用や保存については県との協議が必要となります。来年は終戦 70 年ということで平成 27 年 8 月 31 日までは公開したいと考えていますが、その先どのようにするかは、市でも県でも決まっていません。県と話し合い、よい方法を考えてできるだけ公開していくよう取り組みたいと思えます。しかし、予算もかかるため、

閉館も一つの選択肢にならざるを得ないかもしれません。記念館の保存については課題があると思いますが、保存したいという気持ちを持って課題の解決に取り組んでいくことが必要だと思っています。この施設の今後については、行政だけでできることではないので、筑波海軍航空隊友の会や関心を持っている方を含めて議論をしていくことは必要だと思っています。まずは、市と県で進め方について協議をしていきたいと思っています。この建物と同様に戦時中の貴重なものは、誰かが引き継いでいかないといけません。伝えていくということは守っていかなければならないということなので、どのような方法が良いのかは考えていきたいと思っています。

8 筑波海軍航空隊記念館の若い世代への公開について

【意見等】

この施設は負の遺産ではなく、プラスの遺産とし平和教育に役立てていくことができる。しかし、遠くから足を運んでいる学校があるのに、市内の小中学生の来館が非常に少ない。「戦争は悪い」というのは誰でも知っているが、どのようなことが行われていたのかという戦争の事実を知らなくて「悪い」というだけでは人は納得しない。もっと広報して見に来てもらい、この施設がいかに大事なのかを感じてもらうために施設を活用していきたい。小中学生から30代前半の人たちにもっと来てもらいたい。

【回答】

市内にはこの施設だけでなく、史跡はいろいろあるので、子どもたちには、なるべく直接見に行き、学ぶ時間をとってもらいたいとは思っています。教育委員会を通して学校に投げかけていきたいと思っています。

9 都市計画について

【意見等】

笠間市は非線引き都市計画だが、大体の都市は線引きをしている。コンパクトシティをやる場合、今のままではどこにでも家を作れてしまうので、線引きをしてどのようなまちづくりをしていくか示していくことが必要だと思う。

また、笠間の場合、道路の両脇が商店街となるが、道幅も広いうえ、車の往来も多く横断しづらい。道幅があまり広くない方が、人が回遊しやすく、まちが活性化すれば、若い人が住みたいと思えば、他のまちに出て行かないのではないか。

【回答】

笠間市は線引きをしていませんが、線引きした方が良いのかどうかというのは、いろいろな意見があります。ご意見としてうかがい、今後の課題とさせていただきます。